

100,000人の主婦ネットワークのキャリア・ママによる

抜粋版●多摩川に関する意識調査
(Webアンケート・グループインタビュー)
調査結果報告書

2007年12月

株式会社 キャリア・ママ

概要

1. 目的

「美しい多摩川フォーラム」のシンボルプランの一つである「多摩川桜街道プラン」について、その必要性を探るとともに、今後様々な活性化策を検討していく上で、課題となる中・下流域住民の意識を探ることを目的とする。

2. 調査期間

(1) Webアンケート

アンケート実施: 11月12日～12月7日

設問数: 選択式13問、記述式7問

回収サンプル数: 500

(2) グループインタビュー

調査日時: 2007年12月7日(金) 10:00～12:00

場所: キャリア・ママ オフィス内にて実施

多摩川に関する意識調査(WEB調査)の回答者の中から、「桜街道プラン」への興味のある人を抽出

・多摩川流域に在住 3人

・多摩川流域外に在住 3人

1. Webアンケート調査

■調査の背景・目的

「美しい多摩川フォーラム」のシンボルプランの一つである「多摩川桜街道プラン」について、その必要性を探るとともに、今後様々な活性化策を検討していく上で、課題となる中・下流域住民の意識及び、流域外住民の意見をヒアリングすることを目的とする。

■調査手法

Webアンケート

設問数: 選択式13問、記述式7問

回収サンプル数: 500

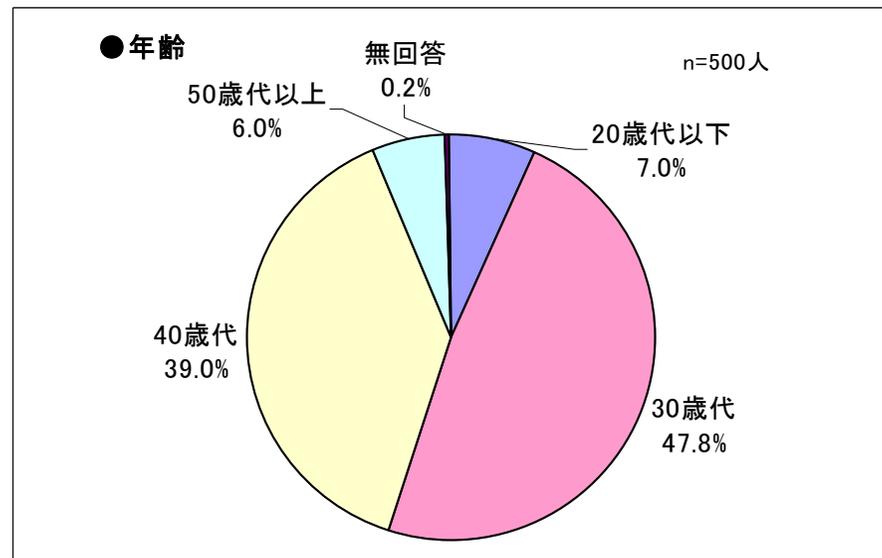
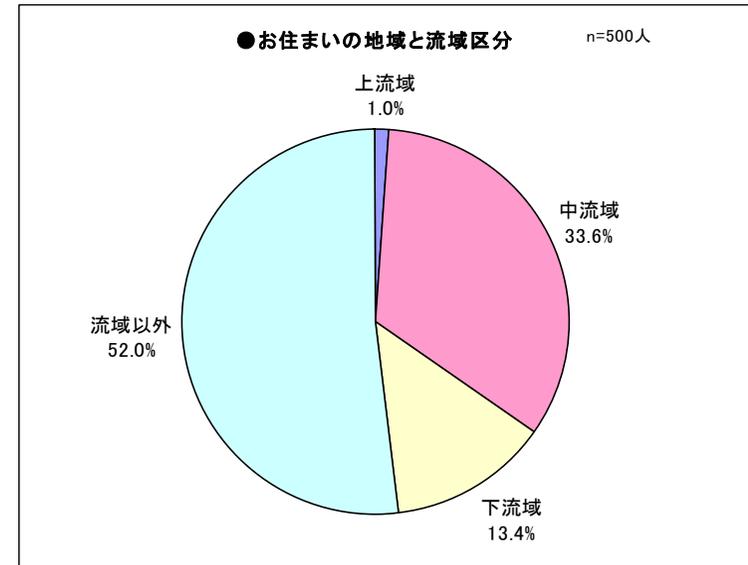
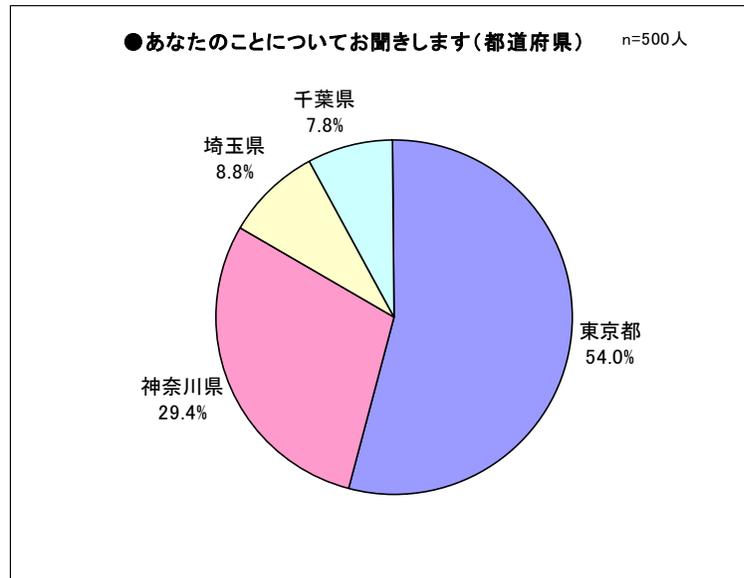
■対象者属性

弊社会員のHP上にて、一都三県在住の女性に対し「多摩川に関するアンケート」を実施

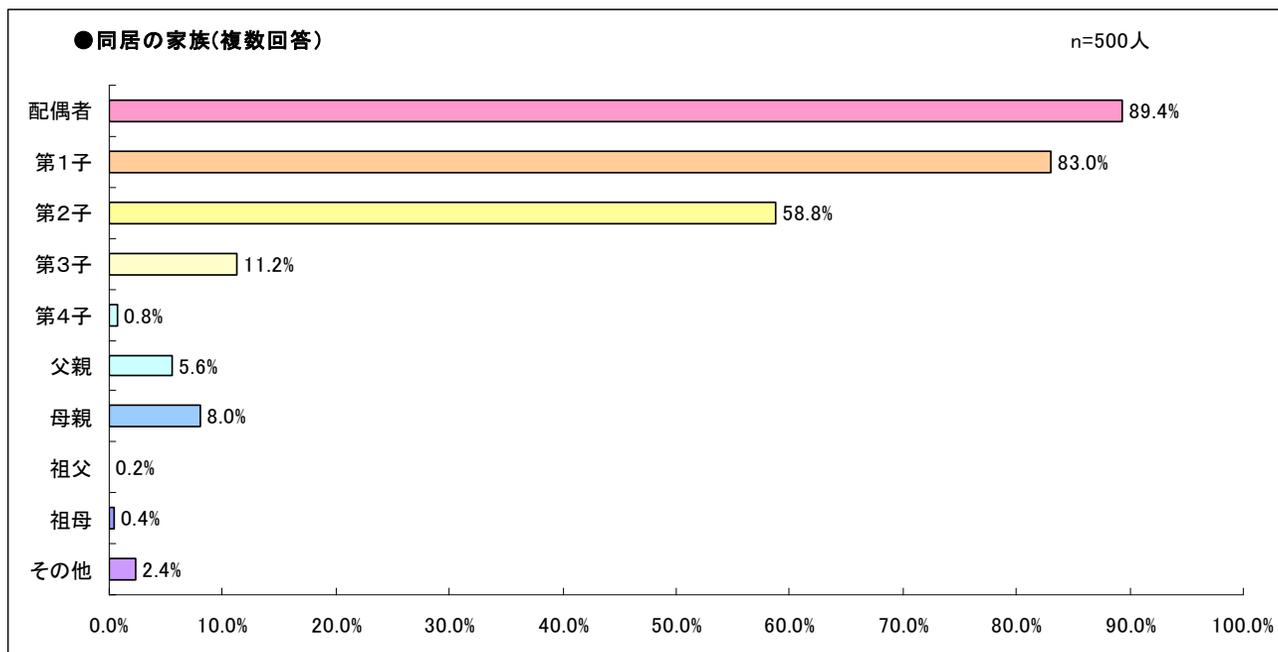
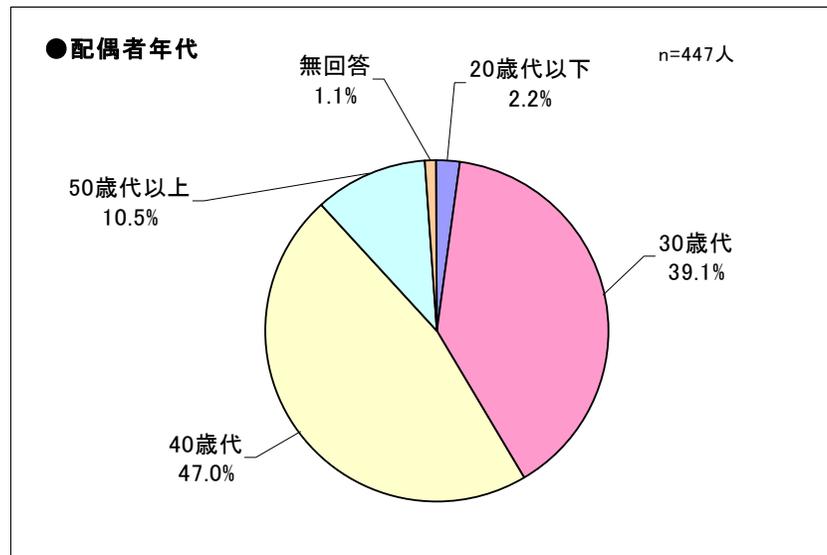
■調査期間

2007年11月12日～12月7日

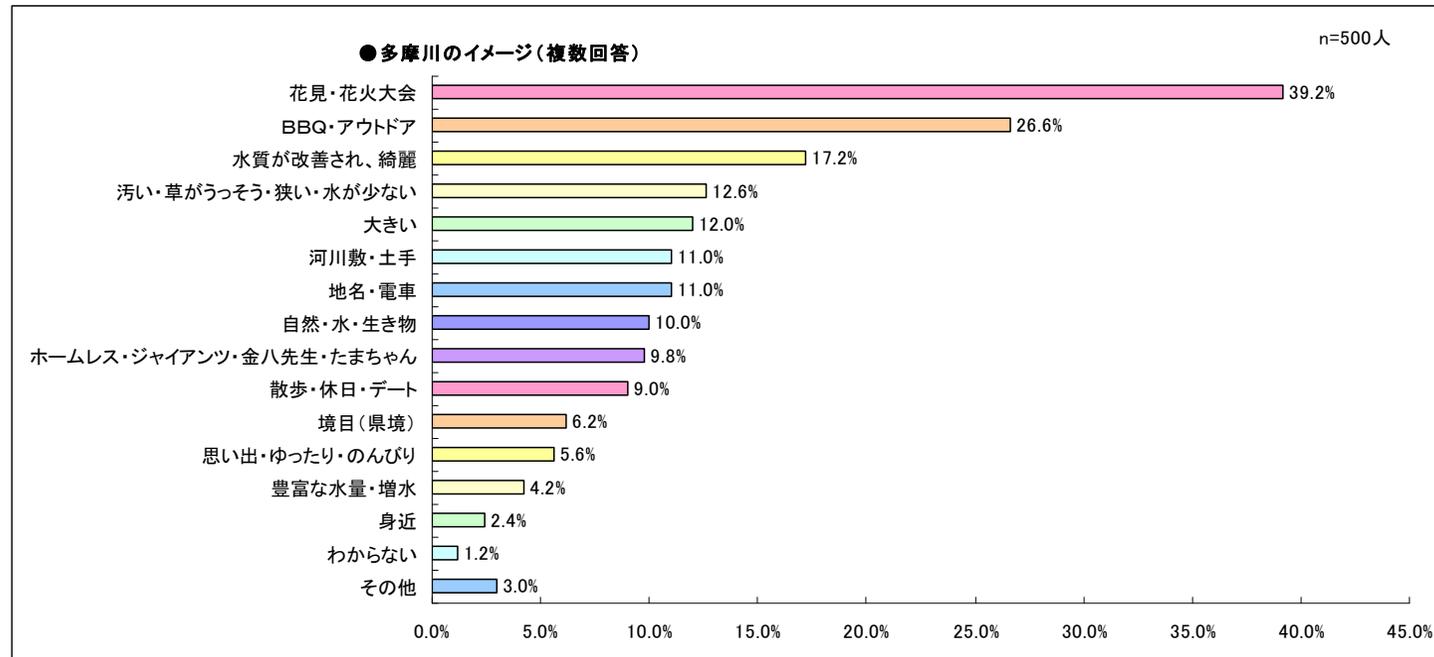
回答者属性(居住地・年齢)



回答者属性(配偶者年代・同居の家族)



Q1.あなたが感じる「多摩川」のイメージを教えてください。

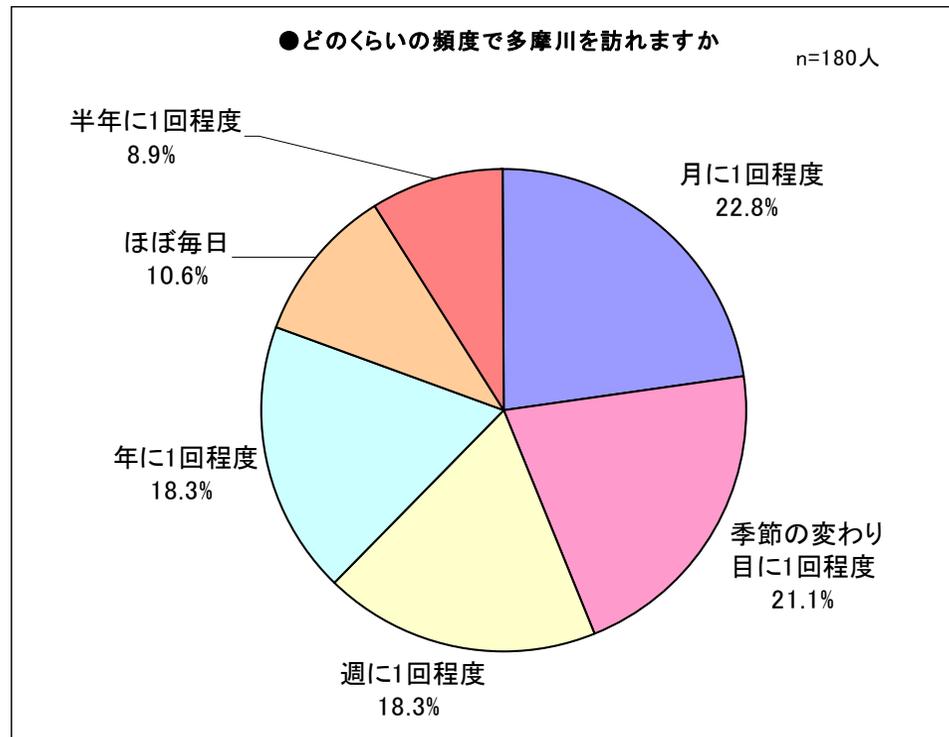


「花見・花火大会」が39.2%で最も多く、次いで「BBQ・アウトドア」26.6%が続く。まずはイベント系のイメージをあげる人が多かった。「花見・花火大会」関連の中では、恒例の花火大会のイメージをあげる人が多く、桜のお花見について触れる人もいた。「BBQ・アウトドア」の中では、「BBQ」という言葉をあげる人が多く見られた。アウトドアの中味としては、釣り、水遊び、キャンプ、サッカーや野球などのスポーツなどがイメージとして語られていた。

川自体のイメージは、「汚い(12.6%)」より「水質が改善され、綺麗(17.2%)」とする回答が多い。具体的には「昔汚かったが、現在はきれいというイメージ」「意外ときれい」などの回答が並び、きれいになったと認識している人の方が多いようであった。実際に昔よりきれいになったのであれば、「汚い」イメージを払拭することも必要であると思われる。

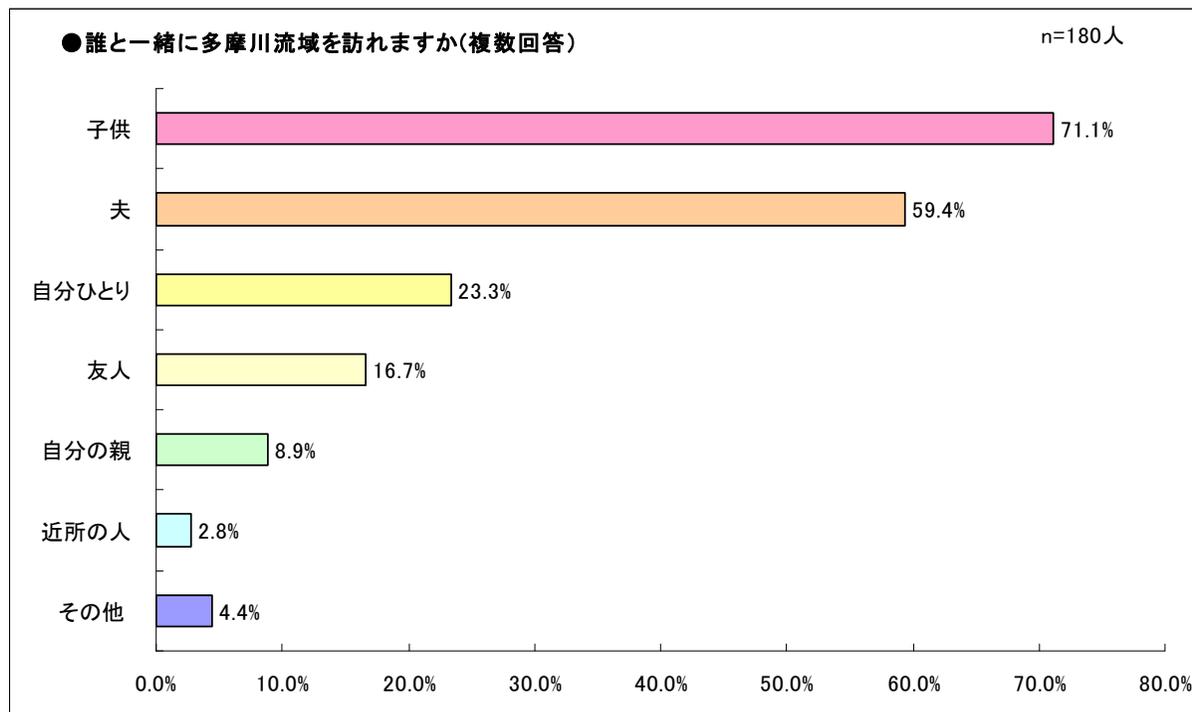
その他1割以上のイメージを見ていくと、「大きい」(12.0%)という端的なイメージ、「河川敷・土手」(11.0%)、「地名・電車」(11.0%)、「自然・水・生き物」(10.0%)などの言葉がイメージとして髣髴されていた。

Q4.⇒Q2で「はい」と回答した人にお聞きします。どのくらいの頻度で多摩川流域(周辺)を訪れますか。



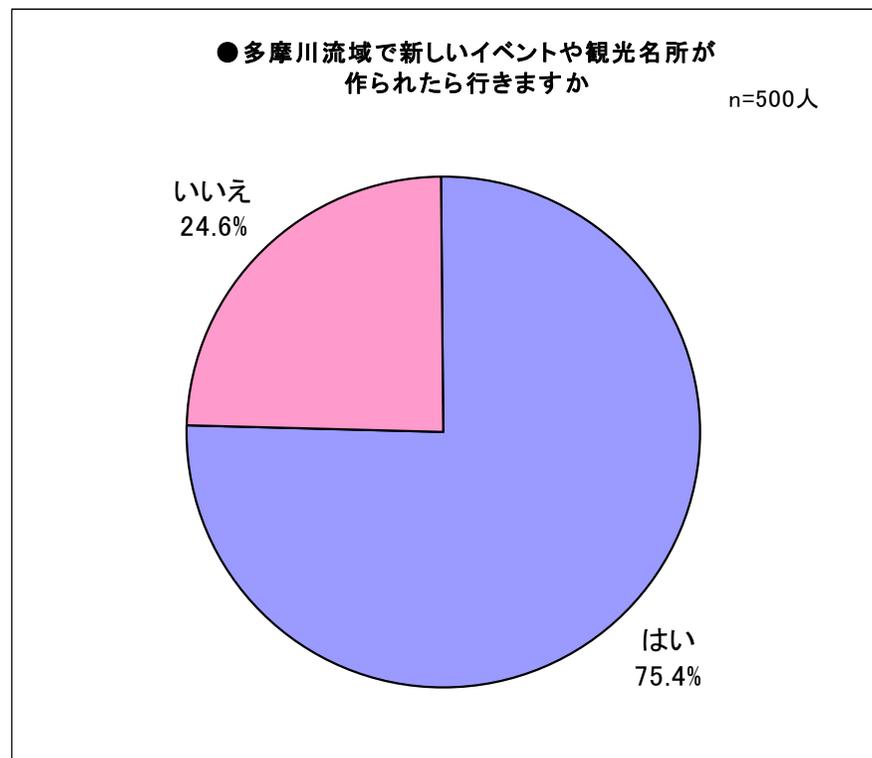
「月に1回程度」が22.8%、僅差で「季節の変わり目に1回程度」が21.1%である。「ほぼ毎日」という人は10.6%であった。「月に1回程度」+「週に1回程度」+「ほぼ毎日」を加えると51.7%となり、多摩川地域に住む人の約半数が月に1回以上は訪れていることになる。

Q5.⇒Q2で「はい」と回答した人にお聞きします。誰と一緒に多摩川流域(周辺)を訪れますか。(複数回答)



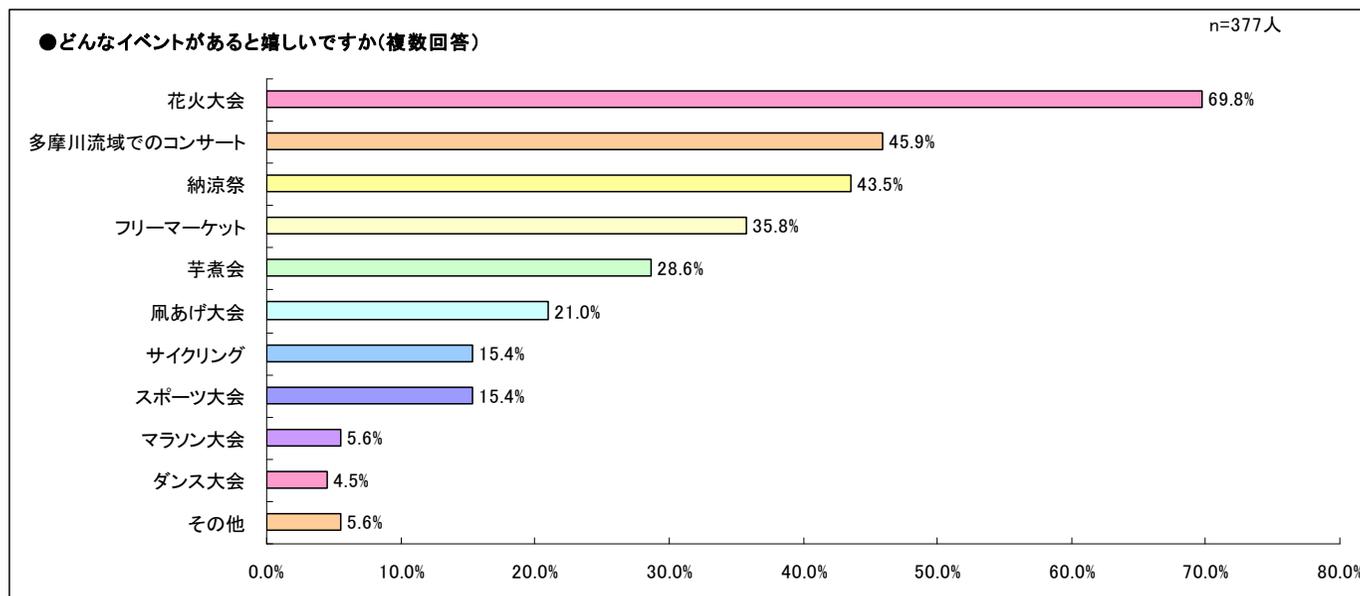
「子供」と一緒に71.1%と最も高い。次いで「夫」が59.4%である。30代、40代女性が回答者の約9割弱を占めるため家族と一緒にという回答は多い。
「自分ひとり」で訪れる人も23.3%おり、誰かと一緒でも一人でも訪れる場所となっている。

Q9.多摩川流域で新しいイベントや観光名所(多摩川流域に桜街道、水辺のコンサート等)が作られたら行きますか。



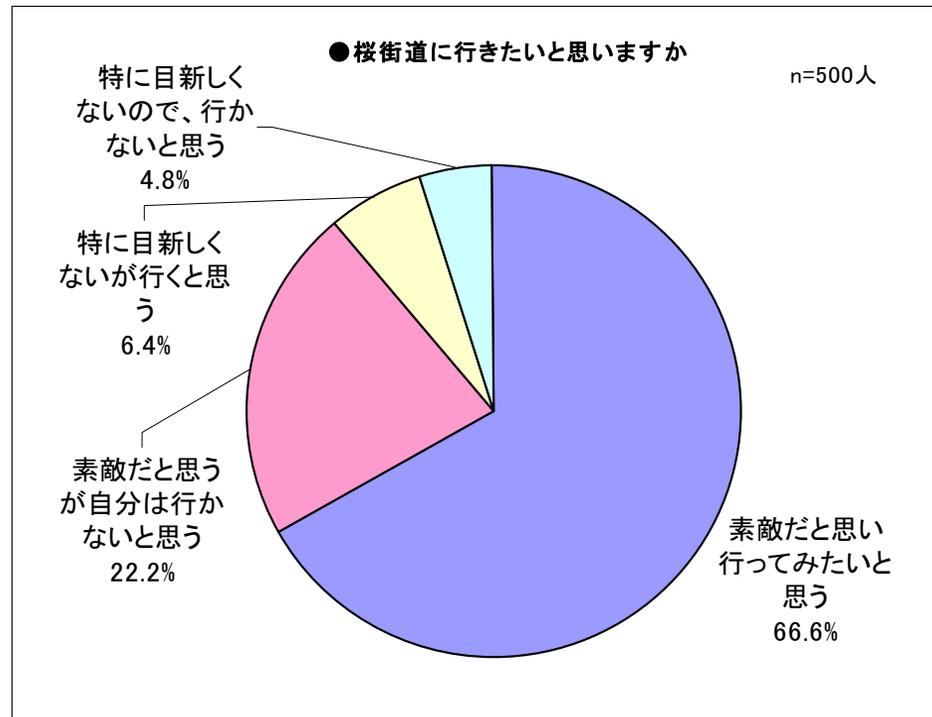
多摩川流域で新しいイベントや観光名所(多摩川流域に桜街道、水辺のコンサート等)が作られたらいくかどうかを聞くと、75.4%が「はい」と肯定的な回答をした。

Q10.⇒Q9で「はい」と答えた方にお聞きします。どんなイベントがあるとうれしいですか。(複数回答)



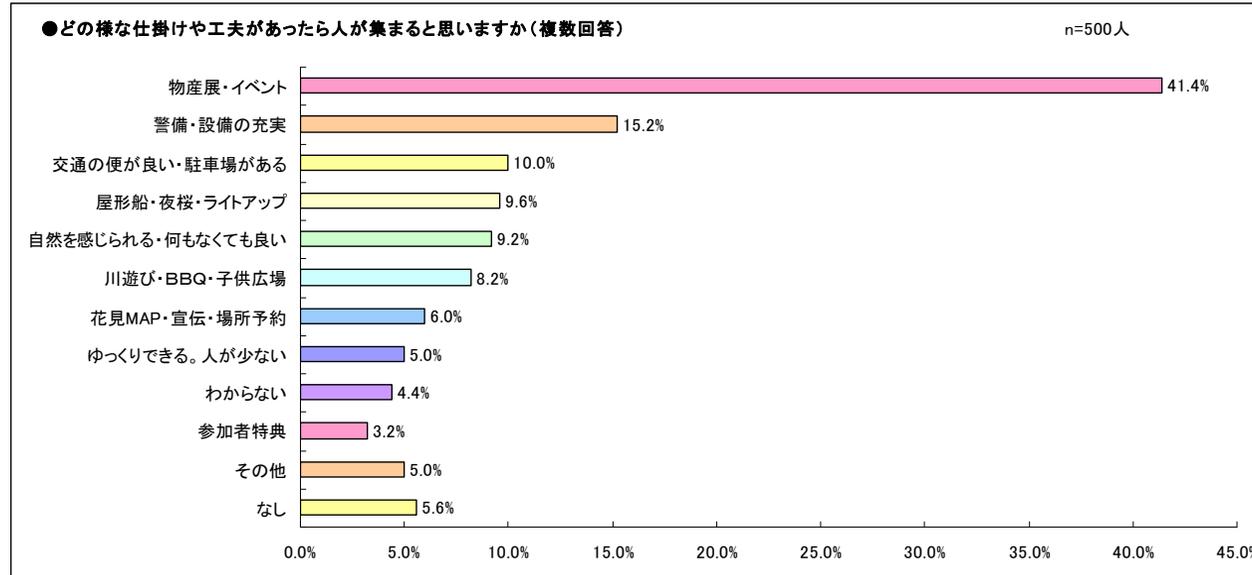
具体的なイベントについては、「花火大会」が69.8%と群を抜いて高く、次いで「多摩川流域でのコンサート」(45.9%)「納涼祭」(43.5%)、「フリーマーケット」(35.8%)が選ばれた。上位3つは夏をイメージするイベントであるが、秋～冬にかけてのイベントとして見ると「芋煮会」や「凧あげ大会」を選択する人も2割以上見られた。「マラソン大会」は5.6%の支持しか得られなかったが、青梅マラソンという大きなイベントのある地域でもあるので、既存のものや絡めたイベントもあってよいと思われる。年間を通して、季節ごとにイベントをつくっていくことで、いつも多摩川に行けば何か楽しいことがある、と思ってもらうことも重要であると考えられる。

Q12.このプランを聞いて、桜街道に行きたいと思いますか。



「素敵だと思いき行ってみよう」が66.6%、「特に目新しくはないが行こう」が6.4%で、計73%が「行ってみよう」と回答した。多摩川が流れる市区町村に住んでいる人が48.0%であることを考えると、多摩川から地理的に離れていても「行ってみよう」と感じた人がいることがわかる。実際にHPを見て回答したかどうかはわからないが、ある程度の魅力は伝わったのでは、と思われる。

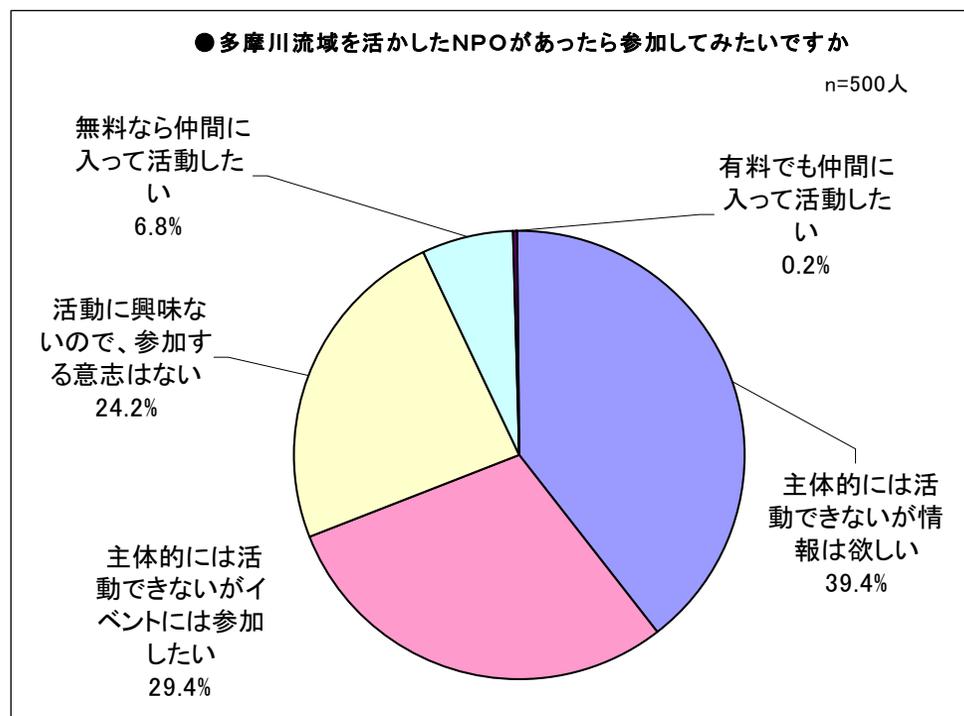
Q14.このプランにどのような仕掛けや工夫があったら、人が集まると思いますか。



「物産展・イベント」が41.4%にのぼる。具体的にあげられているのは、スタンプラリー、屋台の出店、川の魚を調べたりする家族イベント、各地方の物産展、お茶会などである。「定期的にイベントをして、まずは多摩川に人を集めるようにしたらよい」と、花見客を増やすための方策としてイベントを仕掛けるという意見もあった。二番目に多かった内容は「警備・設備の充実」(15.2%)である。休憩所やトイレ、ゴミ箱などの設備を充実させ、清潔に保つとともに、いわゆる飲酒で騒ぐような花見ではない洗練された花見とするために、警備も必要とされた。三番目は「交通の便が良い・駐車場がある」(10.0%)である。Q9の多摩川流域に新しいイベントができて「行かない」理由にあったように、スムーズにたどり着ける、車で行っても駐車場に困らないことは、大きなポイントになると思われる。その他の仕掛けとしては、夜の花見をイメージした「屋形船・夜桜・ライトアップ」(9.6%)、子供向けの仕掛けとしては「川遊び・BBQ・子供広場」(8.2%)などがあげられた。また、ユニークな視点としては「花見場所の予約制度」で場所取りに時間を割かなくてもよいこと、「近隣の史跡などを訪ねながら街道を歩くガイドツアー」で花見をきっかけに周辺まで足を伸ばしたくなる仕掛けを提案する意見もあった。

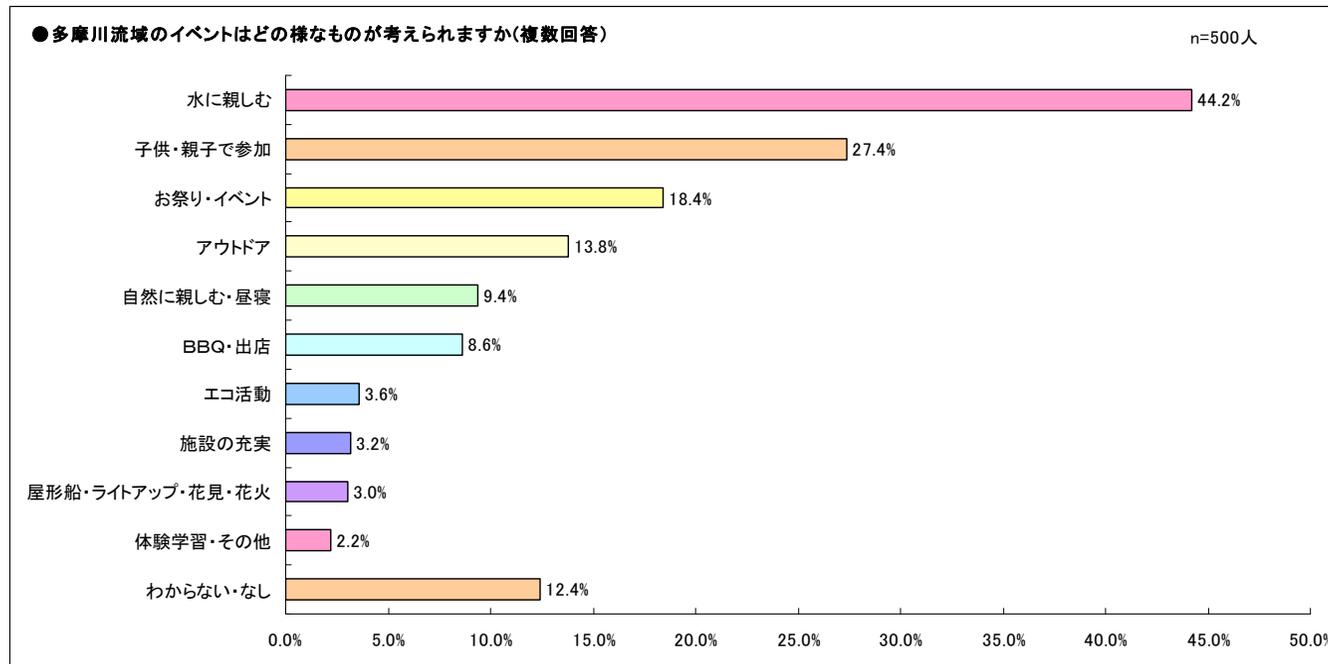
一方で、「自然を感じられる・何もなくても良い」という回答も約1割ある。特に仕掛けをしなくても人が自然と集まる、桜のトンネルがあったらたくさんの方が来る、と花そのものの美しさを楽しみたいという思いがあるようだ。「ゆっくりできる・人が少ない」の回答の中には、「外部から多数の人を呼び込むのではなく、まずは地元住民が楽しく憩う場所にしたら」「人ごみはあまりひどくならない」など、混雑せずゆっくり楽しめる花見を希望する意見もあった。

Q15.多摩川流域を活かした活動をするNPOがあったら参加してみたいと思いますか。



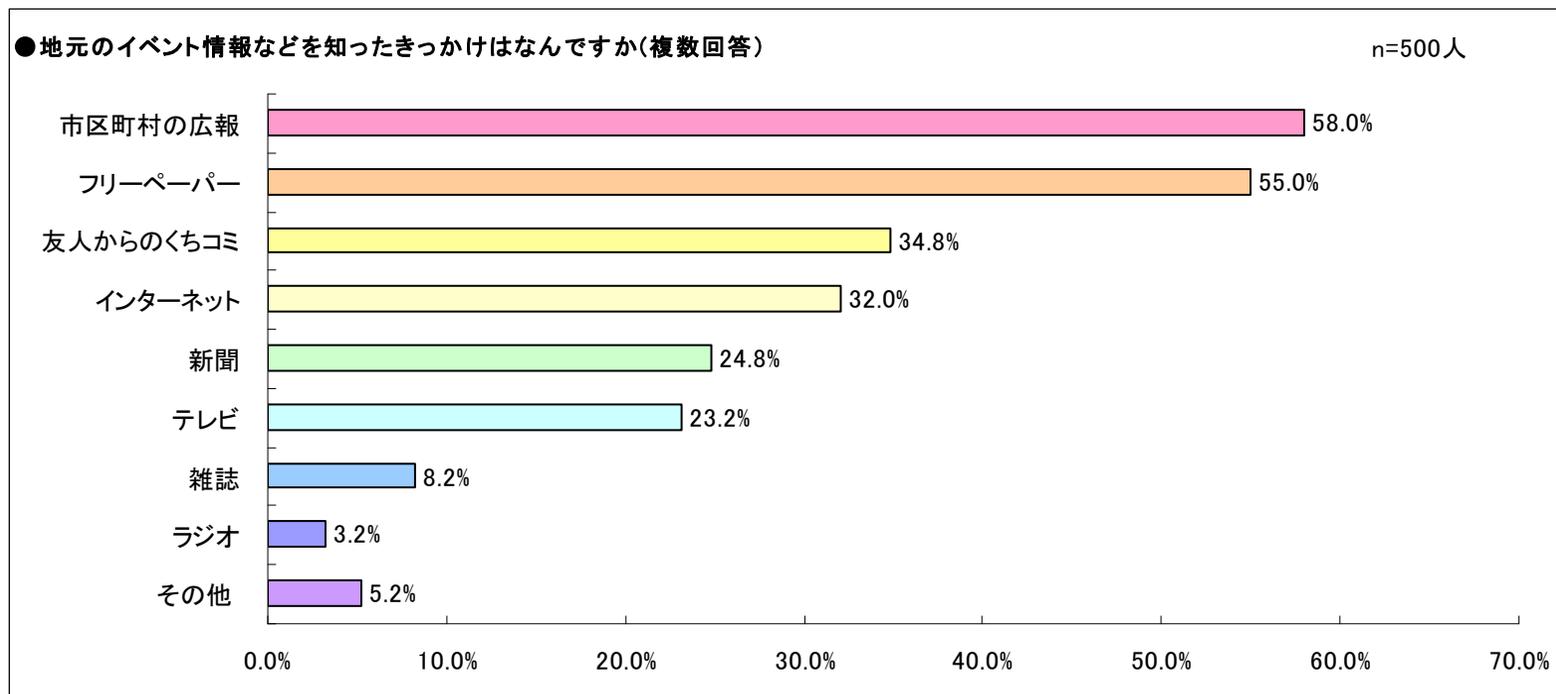
多摩川流域を活かした活動をするNPOへの参加意向については、「主体的には活動できないが情報はほしい」の回答が、39.4%といちばん多かった。次いで「主体的には活動できないがイベントには参加したい」が29.4%で、全体の約7割の人はNPO活動に主体的に関わるよりも、情報だけ欲しい、イベントには参加したい、と受身の姿勢である。まだ小さな子供のいる人が多いと想定され、なかなか主体的に活動に参加することが難しいライフステージであることも理由として考えられる。「活動したい」と回答した人は、「無料なら」が6.8%、「有料でも」はわずか0.2%（1人）のみである。残りの24.2%は「興味ないので参加する意志はない」人たちである。

Q18.多摩川流域を活用して、参加型イベントや観光名所作りを行なうとしたら、どのようなものが考えられますか。



「水に親しむ」イベントを発想したのは、全体の44.2%にのぼる。具体的には、釣り講習、いかだくだり、カヌー、川での遊泳などがあげられた。実際に個人では経験することが難しいことを、イベント参加という形で経験したいという意向が感じられる。「子供・親子で参加」を切り口とした提案も27.4%あった。子供だけが参加するのではなく、「家族で参加できるもの」「子供と大人と一緒に遊べるようなイベント」など、自分も一緒に楽しみたいという気持ちがあるようだ。18.4%の人にあげられた「お祭り・イベント」の内容としては、スタンプラリー、コンサート、河川敷のライトアップ、お茶会、凧揚げ、フリーマーケット、物産展などがあがっている。「アウトドア」(13.8%)の中身は、マラソン、ウォーキング、ラフティング多摩川の魅力を発見するウォークといった意見があげられている。「エコ活動」は3.6%に過ぎないが、ごみ拾い、川の掃除など環境に配慮した活動をイベントとする意見もあげられた。その他提案されたイベントをピックアップすると、BBQ、屋台、芋煮会、多摩川の自然を学ぶ会、コンサート、夏休みの体験学習、観光名所としては大型ドッグラン、水の利を活かした公園などがあげられた。

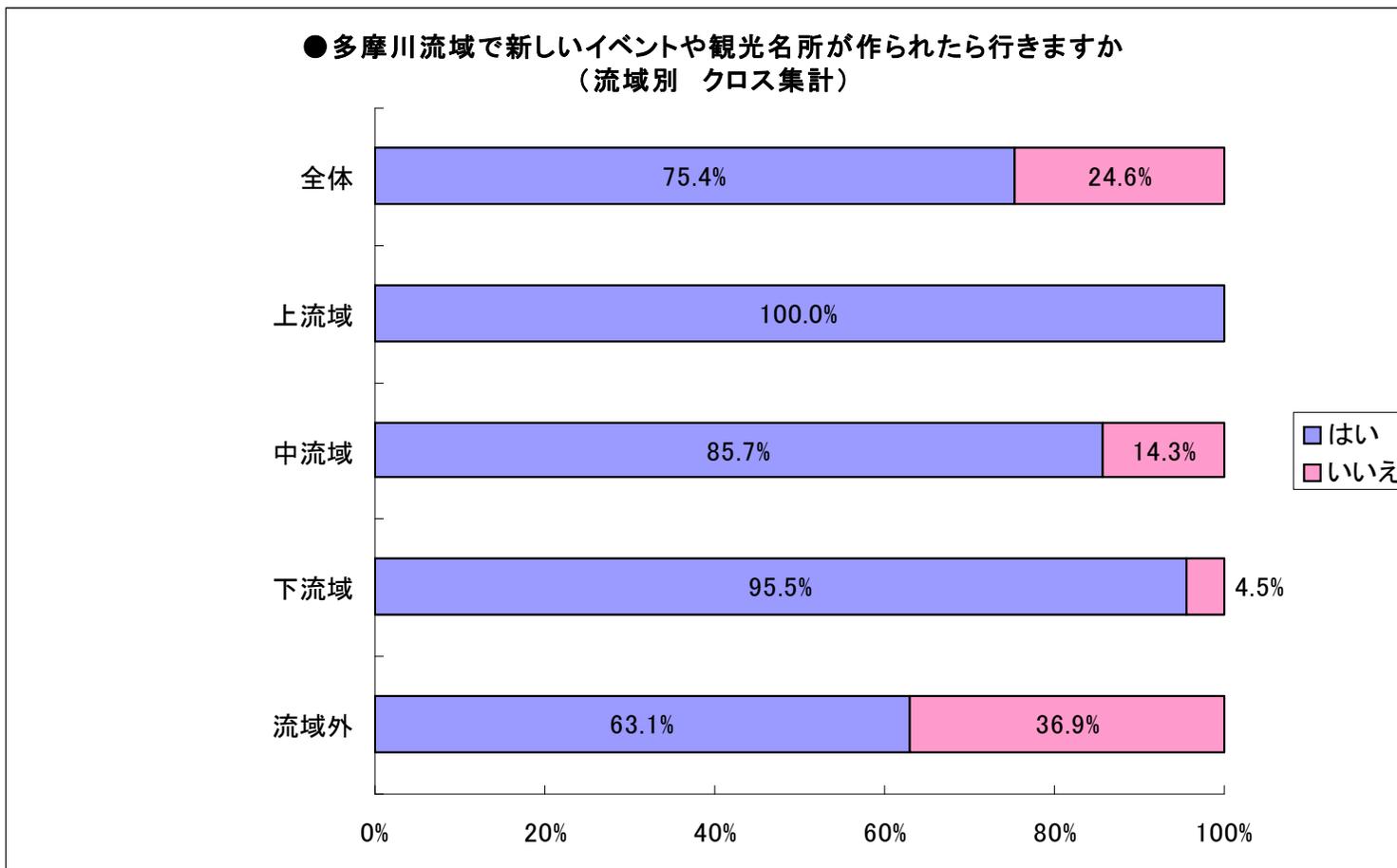
Q19.地元のイベント情報などを知ったきっかけは何ですか。(複数回答)



地元のイベント情報入手先については、「市区町村の広報」が58.0%といちばん多い。次いで「フリーペーパー」が55.0%となっている。2つの媒体の選択比率にほとんど差はなく、フリーペーパーが自治体の広報と同等の情報源として活用されていると感じられた。3番目は「友人からの口コミ」(34.8%)、4番目は「インターネット」(32.0%)である。新聞やテレビをあげる人は各2割強で、地元の情報は地元の媒体で、広く深く知りたい時はインターネットでという情報収集方法をしている様子が見えてくる。

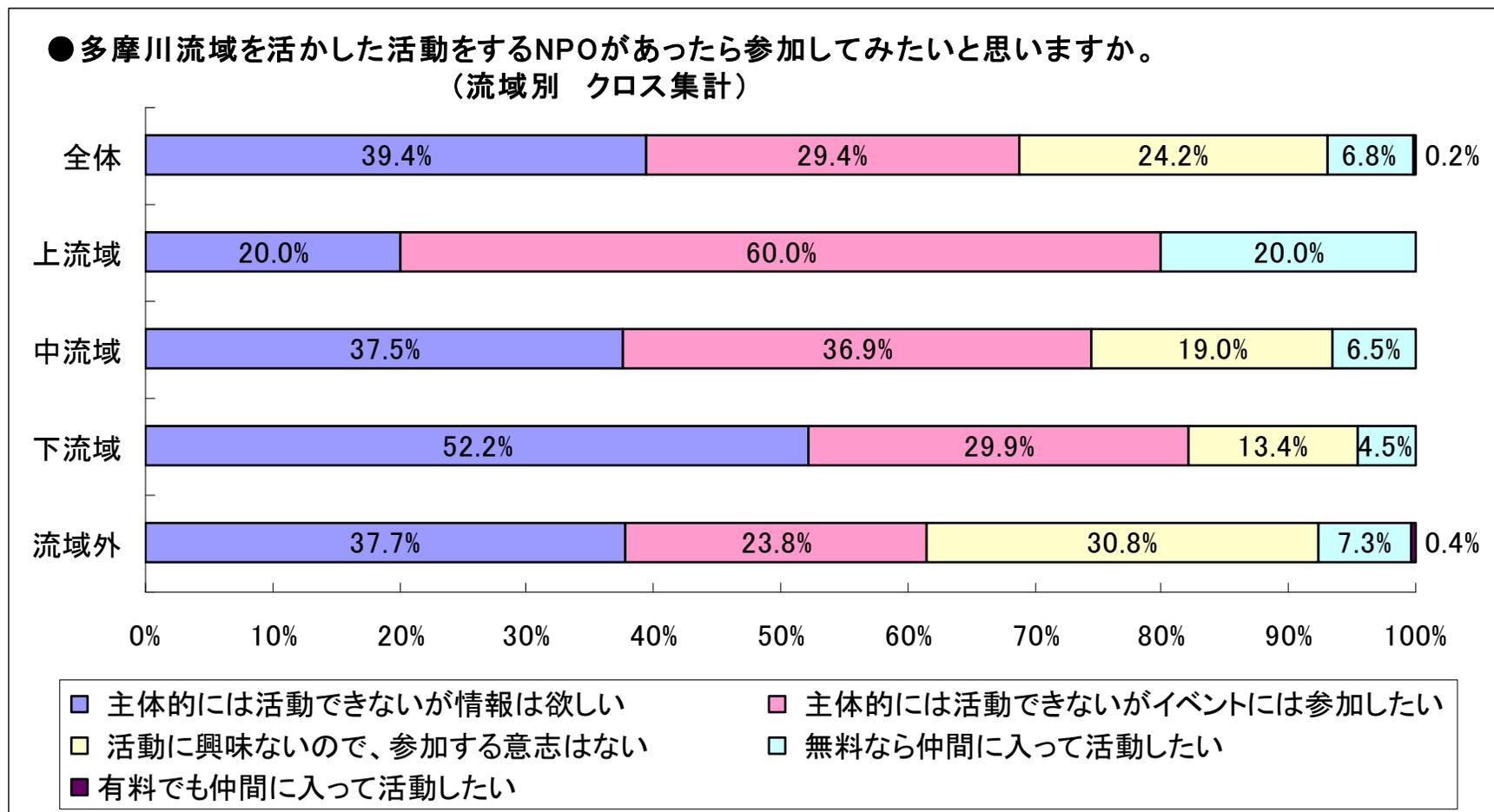
Q9.多摩川流域で新しいイベントや観光名所(多摩川流域に桜街道、水辺のコンサート等)が作られたら行きますか。

●流域別でクロス集計



Q15.多摩川流域を活かした活動をするNPOがあったら参加してみたいと思いますか。

●流域別でクロス集計



100,000人の主婦ネットワークのキャリア・ママによる

グループインタビュー調査報告書

2007年12月

株式会社 キャリア・ママ

2-1. 対象者プロフィール

NO	お名前	都道府県	年齢	家族構成	多摩川との距離	趣味・関心ごと
1	A	東京都 調布市	32	夫、長女6歳	流域在住(徒歩5分)	ダイエットを兼ねて多摩川沿いを歩く
2	B	東京都 世田谷区	39	夫、小5(男)、小2(男)	子供の頃から 流域在住	PTA活動に振り回されている
3	C	東京都 稲城市	44	夫、中1(男)、小3(女)	流域外	PTAの次期役員決めで大変な時期
4	D	東京都 新宿区	41	夫、中1(男)、小4(男)、小2(男)、	流域外	CVSデザートにはまっている 太ったらいろんなダイエットを試す
5	E	東京都 昭島市	43	夫、高1(男)、中3(女)、中1(男)	子供の頃から 流域在住	PTA役員で大変 文芸、短歌、モダンバレエ
6	F	神奈川県 横浜市	34	夫、小2(男)、年長(男)、年小(女)	流域外	スポーツ観戦(最近是北京オリンピックアジア予選に熱くなった) ダイエットはライフワーク

- 上・中・下流のどの場所かということも関連するが、周辺整備よりは、川自体がきれいになることが望まれる。
- 清潔なトイレへの要望は高い。
- サイクリングロードなど自然と親しむ方向での整備が求められている。
- 多摩川“流域”のイメージについては、少しでも川が見える場所、少なくとも徒歩圏であることが必要とされた。

【川がきれいになることや周辺整備について】

周辺整備より、川自体がきれいになることの方が嬉しい

- 川自体がきれいになることは嬉しい。きれいなレストハウスなどいらない。かえって遊ぶスペースがなくなる。今の方が子供を連れて行きやすい。
- 周辺を整備してきれいにするよりも、川自体がきれいになると良い。
- もっときれいになるといいと思う。川が汚いと、そこに来ている人のイメージも悪くなる。

下流域はきれいな川にはこだわらない。カフェは必要ない

- 二子玉川周辺の多摩川であれば、中に入って遊ばないので、臭いさえなければよい。カフェなどをあえて整備する必要はない。

きれいな公衆トイレはもちろん、サイクリングロードや駐車場はあるとよい

- 公衆トイレはきれいにしたい。
- BBQ時にはトイレの近くに場所をとることが多いので、もっと整備されたトイレがたくさんあるといい。
- サイクリングロードが整備されるのはいい。
- 駐車場はある方がよいが、川の至近にある必要はない。
- 川の近くまで車で乗り付けるということは避けたい。そこまでのアクセスもプランの一部として考えるならば、行くまでの過程を楽しめるようにするのはいい。
- (イベントなどがあるときは)パークアンドライド方式でもかまわない。
- ちょっとお茶をするようなカフェは歩いていける範囲内の街道沿いにあればいい。

【多摩川“流域”のイメージ(どこまでを“流域”と考えるか)】

多摩川が少しでも見えた方がよい

- たとえ端っこでも、多摩川が流れている場所というイメージである。
- 桜が多摩川と一緒に見える場所がいい。

多摩川から歩ける距離が多摩川“流域”

- 多摩川から歩ける距離が多摩川流域。

- 桜街道を魅力あるものとするためには、地域の人々が主体的に参加することが必要とされた。
- 例えば植樹活動から積極的に関わることで、その後の周辺美化活動への参加意識も高まるという意見があがっている。
- 現在の課題としては、サイクリングロード整備が自治体ごとに異なる点があげられた。
- また多摩川流域全体の視点からは、場所に応じたプランが必要との指摘もある。

【夢の桜街道プランについて】

地域の人々の心の中にも桜を植える

- 地元の人たちを巻き込むことが必要。地区ごとに何本を目標に植えるとか、「みんなの桜」を植える時は地域の人たち総動員でやるとか、「地域の人々の心の中にも桜の木を植えていく」ことが大切。

植樹した人がわかると嬉しい

- 1つの学校に1本など、植樹祭を学校行事にしていく。
- 1本1本の桜に、植樹した人のネームプレートがついているといい。

桜守り活動は、家の近くにあること、自分が植えた木であればやる気になる

- 自分が植えた木であれば、桜守りをしてもいい。植樹に参加することで愛着が湧くので。ペットを飼うのと似た感覚である。庭の木も多摩川の木も同じ。

周辺美化活動は、参加するとしても義務的

- ゴミ拾い活動などは、気持ち的には大変だけど、参加はしてもいい。
- 人が植えた木の周辺のごみ拾い活動なら、義務的な参加になる。
- イベントとセットであったり、食べ物や飲み物のおみやげがあれば参加してもいい。

各自治体が協力してサイクリングロードを整備して欲しい

- 立川から府中方面へ自転車で下っていたことがある。桜のある時期だったらもっと快適できれいだらう。途切れてしまい迂回しなければいけないところがあるので、自転車ですずっと行けるよう整備されているといい。
- 府中の郷土の森まで自転車でよく行くが、府中市側はきれいに整備されているが、狛江市側はじゃり道になっている。歩きの時はよいが、自転車だと避けてしまう。

流域場所ごとにプランを考える(上流は自然に親しみ、下流はおしゃれに)

- 上流は自然を楽しむために、お弁当を準備したりBBQをしたりして楽しみたいし、下流であれば、子供が大きくなれば、夫と一緒に歩き、桜の見えるオープンカフェでくつろぐイメージがいい。(市ヶ谷～飯田橋のお堀端の桜を見ながら散歩するイメージ)

- 川は非日常のアウトドア体験ができる場所。釣り、カヌー、魚のつかみ取りなど、親が子に経験させてあげられないような活動は魅力がある。
- 小学生の子供の親にとって学校の宿題ネタ提供はありがたい。
- 子供だけでなく、親自身も楽しめれば一層興味も湧く。
- レガッタなど、見たことがないイベントについては、テレビなどで話題になっていると足が向きやすくなるとされた。

【参加したいイベント・活動】

個人ではお膳立てできない、川ならではの自然体験ができると良い

- 川は日常の体験ではできないことができる場所。体験型イベントはいい。
- 多摩川で網で漁をしている人がいる。釣りなら親でも教えられるが、網の漁はそういう訳にはいかない。
- 夏休みの行事として、ますのつかみ取りイベントがある。今の子供は経験する機会がないから、親としてはできれば体験的なものがあるとありがたい。
- 子供だけでキャンプ場に毎年行っていた。カヌー、魚釣り、流しそうめんなど、普段親が経験させてあげられないことをしてくれる。お膳立ては必要。

親の視点としては子供の宿題ネタになりそうなイベントを希望

- 夏休みや冬休みの絵日記ネタとして、どこかに連れて行かなければ、というのがある。
- 自由研究も悩みの種。それを解決できるような活動があれば人も集まるし、一挙両得。
- 魚の稚魚の放流をして、何年もかけて成長を見る、つかみ取りができる、釣りができるなど、身近な多摩川でできれば行きやすいし、子供も学べて楽しい。

親も楽しめるイベントがいい

- いかだ下り、カナディアンカヌーは大人も子供も楽しめそう。そうするとわざわざ行く気になる。
- アウトドア料理を教えてもらいたい。ダッチオーブンでママ友達と料理など楽しそう。
- 草木染や絵手紙などは、子供向けでなくても行きたい。

テレビで話題になっているイベントには興味が湧く

- レガッタはおもしろいかもしれない。戸田で見たことがあるが割りとおもしろい。
- ドラマで見たことがある。そのタイミングでやっていたら行くかもしれない。
- テレビで見ておもしろそう、と思えば見に行くかもしれないが、突然レガッタと言われても何だろう、と思ってしまう。

一年中季節に応じたイベントがあるとよい

- 冬はクリスマス・イルミネーション、夏は広い河原で星空観察などあるといい。

できれば格安料金ありがたい

- 無料か500円、1,000円くらいで体験できるものもいい。

- 普段、地元の情報は回覧板や掲示板、広報誌などから得ている。地元のフリーペーパーを活用する人も見られた。
- 地元以外の情報収集はネットが中心。目的地周辺の情報も含め幅広く収集している。
- フォーラムのキャラクターの必要性については、記憶に残りやすくするためには必要とする声もあったが、まずはフォーラム自体の中身の広報をすべきという辛口の意見も聞かれた。

【地元の情報収集の方法】

地元の情報収集は回覧板、掲示板が中心

- 回覧板
- 町内会の掲示板
- 広報誌
- 地元のフリーペーパー(調布市全て)。ポストにも入ってくるし、商店街にも置いてある。クーポンもよく利用する。

少し離れた場所の情報はネットで幅広く収集

- 日帰りでちょっと遠出する時は、インターネットで調べる。目的地の情報だけでなく、行き先でのおいしいお店も調べる。わざわざ行くお花見は、花以外の情報もないと、選択する気になれない。
- 知らない所に行く時は、マップファンをよく使う。
- キャンプに行く時は、ネットで周辺情報を得ていく。

キャリア・ママからの情報発信なら親和性あり

- 多摩川フォーラムのHPでイベント情報を発信するより、キャリア・ママのHP上で発信した方が身近になる。
- 携帯電話への配信はうとうしい。

【フォーラムのキャラクターの必要性】

キャラクターが合ったほうが柔らかいイメージになり、印象にも残りやすい

- キャラクターが合ったほうが印象に残る。今のように写真だけだと、「きれいだな」で終わってしまう。
- 今のペーパーだと堅い印象なので、マスコットがあるほうがいい。

キャラクターのイメージについて

- タマチャンが頭に浮かんだ。
- タマチャンだと、美しい多摩川に合わないかも。美しい現代風女性がいい。「桜ひめ」とか。
- 子供向けだったら、かわいいキャラクターがいいが、年配の方だと女性の方がいいのかも。

キャラクター以前に、まずは「美しい多摩川フォーラム」自体の中身が知りたい

- キャラクター以前に、まず「美しい多摩川フォーラム」がどんな団体なのかを前面に出すべき。今のままでわかりにくい。まだシンボルマークで理解してもらうには早いのでは。
- 100年続けていくための、初めの一步である、と謳う。

対象者の多摩川流域への距離感と 多摩川のイメージ

今回の対象者は、半数が多摩川流域在住、半数が流域外在住であったが、実家が流域近くにある人、過去に学校行事やデート、観光地として出かけたことがあるなど、全員が何らかの思い出を持つ、多摩川との馴染みのある人たちであった。思い出のエピソードからは、その長い流域に親しむ機会が比較的多く、身近な川であることがうかがえた。

川の水については、上流はもちろん、下流についても少なくとも「昔よりきれいになった」というイメージを持つ人が多い。河原でBBQをしたり、スポーツをしたり、花火を見に行ったりするところであり、また近所に住む人にとっては土手が格好の散歩道となっていた。

多摩川夢の桜街道プランの評価

アンケートでは、桜街道には全員が「素敵だと思い、行ってみたい」としていたが、普段の花見は徒歩や自転車でいける場所に行くことが多く、少し離れた場所に行くには、その場所への思い入れやプラスαの魅力が必要とされた。例えば自分の名前のついた桜の木が植樹できる、学校行事として植樹し、学校の木として見守っていくなど、地域の人を巻き込むためのある程度の仕掛けが必要とされた。

植樹や桜守りだけでない仕掛けも必要である。花見の時期に合わせて、人が集まるイベントを開催したり、地元の物産展があるとよいという声も聞かれた。既に流域の各自治体が様々なイベントを展開していることから、これらと有機的に連携させることで、特別新しい仕掛けを準備しなくてもある程度の集客は見込めると思われる。

人が集まれば、周辺整備も欠かせない。その一つとして提示したカフェについては、多摩川地域に求められているのは都心にあるようなおしゃれなカフェではなく、川の見える場所・または川から徒歩圏で行ける、自然にマッチしたカフェである。まだ小さな子供のいる人が多いため、ファミリーがくつろげる場が求められていた。大規模駐車場を整備するより、パーク&ライド方式でもいとされているのも、極力今の自然はそのままにしておいて欲しい、という気持ちの表れであると思われた。

周辺整備について各自治体の取り組みの状況としては、一例にあげられたサイクリングロードひとつとっても、一部はじゃり道で引き返さざるをえない所があったりと、整備にあたっては自治体の協力が欠かせないことも浮かび上がっている。ひとつの自治体では実現できないことを多摩川フォーラムという共通のテーブルにつくことで解決していくことは、意義あることと思われる。

その他のイベント・活動について

多摩川が身近にあるとは言え、中下流域に住むほとんどの人にとって、それは風景としての川である。実際に家族で行って釣りを楽しんだり、カヌーにのるなどの体験は少ない。また、流域から離れている人にとっては、せっかく行くのであれば普段できない活動をしたい、というのは当然と言えよう。このため、参加したい活動としては、子供に体験させたくても個人之力では実現できない川を積極的に活用したイベント(網を使った漁、魚のつかみ取り、カヌー、いかだくだりなど)が望まれていた。夏休みなどの“宿題ネタ”として活用できれば、なお嬉しい。

そういう視点で見ると、周辺のゴミ拾い活動も、単独の活動とせず楽しいイベントと絡ませることで、ゴミ拾いしなければ、という“義務”もはずれるのではと思われた。しかもゴミ袋もトンゴも用意し、準備の面倒もないならば、気軽に参加できそうだ。

提示した水辺のコンサートについては、実際に地域での開催例もあげられ、違和感を持たれなかった。ある特定のファンが押しかけるようなものではなく、流行のジャズなどであれば気軽さが受けそうであると思われた。

レガッタについては、見たことがある人は「意外とおもしろい」としていた。こうした見た経験の少ないイベントについては、遊び方、楽しい見方など、事前の知識普及が必要であると思われた。

いずれにしても、今回の対象者のような小学生のいるファミリー層を狙うのであれば、子供を核としたイベントは欠かせない。ただ、親たちは自分たちも楽しめないとなかなか足は向かないはず。ダッチオープンによるアウトドアお料理教室、草木染など大人にとっても魅力的なプログラムがあることで、「多摩川に行ってみようか」と子供を誘う言葉も増えると思われる。さらに、参加料金が無料もしくは格安であることも無視できない要因である。

3. 総括

多摩川のイメージについて

多摩川流域は、花火大会などの大きなイベントが実施される場、BBQなどのアウトドアライフやスポーツを楽しめる場としてイメージする人が多く、流域に住んでいない人にとっても「行った経験がある」親近感のあるイメージを持つ場所である。WEB調査の対象者の8割以上が東京・神奈川住民であることから、自然の乏しい首都圏においてのイメージバリューの高さがうかがえた。

多摩川のイメージは、定量的には「汚い」より「水質が改善され、綺麗」とする回答が多かった(定量アンケート)。しかし多摩川流域に住み実際に足を運んでいる人と、電車や車の車窓から眺めるだけで普段多摩川を目にしていない人とは違う。前者は「昔と比べるとずいぶんきれいになった」「(中・下流域で)釣った魚も食べられる」と、以前と比較すると「きれいになった」と感じているが、後者にとっては「ごちゃごちゃして汚い。ボート乗り場はさびれている」と、どちらかと言うと未整備で汚い川というイメージがある。

多摩川のイメージバリューだけでなく、川自体の汚いと言うイメージを払拭し、本当はきれいになっている多摩川を知ってもらうためには、まずは実際に足を運んでもらい、実際に川の美しさを目にしてもらうことが必要であると思われる。

イベントの実施について

多くの人に多摩川に足を運んでもらうためには、まずは気軽な「参加型イベント」を主体にしたい。例としてあげた水辺のジャズコンサート、レガッタなどは、気軽に楽しめるイベントとして多くの人に受容されていた。

小さい子供がいるファミリー向けには、子供と一緒に参加できるイベントが有望だ。主婦が望むイベントは、子供に経験させたくても個人的には難しい(面倒な)ことであり、できれば格安で参加できる“楽しい”イベントである。楽しく学ぶことで得られるメリットは、特に小さな子供を持つ母親にとっては大きい。その際、川という自然への接し方を知らない人がほとんどなので、生態系を壊さないことを指導するプロによるナビゲーションも必要だと思われる。ここは安全で川に入ってもいい場所なのか、植物を植える、魚を捕る・放流してもよい場所なのか、“楽しい”だけで侵してはいけない部分は教えてあげなければならないだろう。

こうした“楽しい”イベント参加をきっかけに、多摩川の美しさに触れてもらえれば、次のステップとして主体的イベントへの参加も自然に促せる。例えば、水辺のコンサートのあと、川遊び体験のあとは、自分達が出したゴミだけでなく、参加者全員がおそろいのゴミ拾いグッズを持って、後片付けまで一緒にやる。「行けば行くほど、多摩川がきれいになる」ことが、ひいては地域住民の地域貢献意識醸成につながると思われる。

さらに「100年プラン」という息の長い、次世代に継承していくプランとするのであれば、子供が成長すれば、今度は夫婦2人でも楽しめる、という視点も必要となるだろう。

多摩川フォーラムの広報・PR方法について

格安で、できれば無料でイベントに参加したい主婦にとって、フォーラムの個人年会費1,000円という提示は、受け入れられなかった。それ相応のメリットとして考えられるものがなかったからである。

「今日話していることは、“美しい”というより“楽しい”の方がぴったりとくる」という言葉にあるように、特に中・下流域に住むファミリー層の意識を醸成するには、“楽しさ”と言うメリットは欠かせない。その楽しさを味わった上で、あらためて多摩川流域を見直し、地域貢献の気持ちが芽生えることで、はじめて積極的な支援活動に結びついてくるのではないだろうか。

誰がPRをするかは、フォーラムのイメージを大きく左右する。例えば、今回提示したフォーラムのパンフレットを見ても「固い」「怪しい」と個人での参加はハードルが高すぎる様子がうかがえた。それよりも、ファミリー層の主婦向けであれば、例えば、キャリア・ママネットワークなどの団体がその広報主体となることの方が親和性が高く、主婦の積極的な行動を促がすことが確認された。自分たちの場所であり、参加意識の高いキャリア・ママであれば、主婦会員によるイベントの企画や取材も、自発的な活動として促がしやすいと思われた。(現在6社のSNSなどの後方支援を行なっています)

また、情報収集方法としては、広く詳しく得るためにもはやインターネットは欠かせない。そのためにも、キャリア・ママなどの市民型ネットワークのWEBがひとつの窓口となる可能性は高いと思われた。

美しい多摩川フォーラムについて

「美しい多摩川フォーラム」については、WEB調査ではHPの紹介、グループインタビューでは簡単なパンフレットを提示しての紹介であったため、詳細まで知った上で参加意向が取れた訳ではないが、少なくとも対象者の主婦層にとって、とっつきやすいものではなかった。フォーラムに主婦の個人参加、または子供が所属する団体・地域に所属する団体での参加を促すのであれば、上記で提案したような“楽しい”イベントを自ら企画してもらい『チーム多摩川』『楽しい多摩川プロジェクト』などと称する部会を入れることも検討したい。その際、キャリア・マムの主婦ネットを機動的に使うことも可能である。

また、今後の周辺整備に当たっては、当該30市町村それぞれの協力を仰ぐことが必要となるが、その際には、主婦たちが極力自然はそのままにして欲しい意識が強いことを考慮したい。イベント時のトイレ設置は必須にしても、駐車場よりパーク&ライド、都会的なレストハウスよりアウトドア風のファミリー向けにするなど、ここでも主婦チームの意見は参考になると思われる。主婦との親和性が高いキャリア・マムなどが窓口となって、主婦ネットワークを活用していくことは意義あるものと感じている。

一方で、“楽しい”だけでなく、生態系への配慮、自然保全の必要性など守るべき点についての正しい知識普及もフォーラムの役割だと思われる。環境に配慮する意識は、社会的にも、子育て世代にとっても非常に強くなっており、住民参加による多摩川地域を活性化させていく運動は、時流的にも適ったものと思われる。さらに、社会的意義のある活動をする企業に対する住民の目も厳しくなっており、主婦による企業の客観的評価は無視できないものと思われる。このため、今後もフォーラム展開の各ステップで彼女たちの意見を吸い上げていくことは重要であろう。